

ロゼッタネットの新しい展開 -TC (電気通信) カウンシル

TC (Telecommunication : 電気通信) カウンシルは、ロゼッタネットの6番目のグローバルカウンシルである。

TCカウンシルは、ECカウンシルの主要メンバーでもあるノキアやシスコシステムズ、モトローラ、エリクソンなどが主導し、AT&T、ブリティッシュテレコム、ドイツテレコム、テリアソネア (スウェーデン・ノルウェー)、ボーダフォンなどの欧米の主要電話会社が参加することによって、2004年6月に正式に発足した。サプライチェーン的には、EC (電子部品) 業界の下流、IT (情報機器) 業界と並行する位置付けになり、NW機器・携帯電話メーカーがサプライヤー、電話会社がバイヤーとなる。

TCカウンシルがロゼッタネット標準実装のターゲットとして検討しているビジネスプロセスは多岐に渡る。04年6月に開催されたロンドン会議では、物品の調達から支払いまでの一連のプロセスを合理化するOrder-to-Cash、NWインフラの保守・運用に必要な機器の需要予測情報を交換するTC Collaborative Forecasting、トラブル対応プロセスのAutomated e-Ticketing、保守・交換機器の配送プロセスのService Contract Managementなどがマイルストーンプログラムとして提案されている。いずれの提案も04

年後半から05年前半にかけて実装計画が具体化される見込みである。

TCカウンシルとして特徴的な動きとして、TMF (TeleManagement Forum) との提携が挙げられる。TMFは、88年に創立され、主要な電気通信業者を中心に340社以上が参加する電気通信業界における世界的な標準化団体である。TMFが策定しているeTOM (enhanced Telecom Operation Map) は、電気通信事業者特有の業務プロセスをモデル化したもので、業務ブロックに分類したマップを定義、図示したものである。一般にロゼッタネット標準の実装を進める場合、適用する業務プロセスのモデル化が一番重要であり、また時間と労力のかかる部分である。eTOMで既に定義されたモデルを採用し、メッセージとしてPIPをアサインすることで、実装にいたるまでのプロセスコストが大幅に削減されることが期待されている。

04年6月現在、TCカウンシルの参加企業は欧米が中心であるが、04年5月に行われたTMFとロゼッタネットの会合のなかでは、アジア地域においても両者の連携を行なっていくという合意もされており、今後の動きに注目していく必要がある。

TCカウンシルの位置付け

